



丹那小だより

函南町立丹那小学校
令和4年12月発行

丹那っ子として生きる力が育つ食農体験活動「自給自足 DAY」 校長 土屋 貴俊

肉も魚もないごはん味噌汁だけの昼食でしたが、子供たちにとっては心に残る一食となりました。

お米は5年生が大塚さんの田を借りて、田植え・稲刈り等を行い育ててきた新米コシヒカリです。味噌汁にはトウモロコシ(4年生)・白菜(6年生)・人参(2年生)が入り、それぞれの素材の甘味や香り旨味が染み出た味わい深いものでした。それに加えておやつには、掘り出してから1年生が毎日ひっくり返す作業をして熟成させたさつま芋を焼いてもらいました。



スローガンの「秋のめぐみを味わおう、自然に感謝 丹那シェフ」の言葉通り、子供たち一人一人が栽培・調理にかかわりながら、丹那の自然や栽培等でお世話になった方々に感謝しながらみんなで丹那の秋の味覚を堪能しました。

子供たちはこの自給自足 DAY を経験することで、丹那のよさを改めて感じるだけでなく、次のような点において学び、力を付けました。

① 自分事として考える

自然(天気・気温・生き物等)と人との関係を考えます。夏の暑い中、草取りをしたり、水撒きをしたりする必要性と大変さを実感しました。天候不順でなかなか成長しない作物を見て、どうしたら早く成長するのかを考え調べ、行動しました。

② 自然のありがたさやあたたかさを感じる・気付く

土の感触の心地よさや温かさを感じました。また普段口にしていない野菜は、自然の力や人々の努力のおかげで成長できていることを実感し、感謝の思いをもちました。調理の際、普段なら捨ててしまうような端の部分も大事に扱い、野菜を無駄なく使い切りました。

また、自然は人間の予定通りにできないことや、栽培活動は様々な工夫や努力が必要であることに気付きました。

③ 自然の原理やしぐみを知る

種の撒き方、苗の育て方、肥料の与え方、作物をねらう生き物からの守り方、間引きの意味、芋の熟成の仕方などたくさんのことを学びました。白菜を防虫ネットで覆っても虫がついてしまう現実を見て、子供たちは一匹ずつ虫を取り除いていました。

④ 他者とかかわる

子供と子供、子供と支援者、多くの方と収穫に向けて心をつなげて協働しました。

⑤ 挑戦する

トウモロコシと言えば夏の作物ですが、4年生は秋に収穫できる種類があることを知り、9月に種まきをしました。天候不順の日が多く計画通りには成長できませんでしたが、子供たちは11月に入ってからは、好天を祈り毎日のように成長の様子を見守りました。

このように地域の皆様の協力で子供たちは、丹那の子としてたくさんのことを学んでいます。